

2015年11月8日

調査レポート

実践女子大学 人間社会学部
実践「ペルソナ」研究会

実践『ペルソナ』通信 (No.11)

「女子大生の靴」に関する調査結果
～靴はデザイン重視！～

実践女子大学人間社会学部・実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「靴」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は48サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当：竹内光悦）」、「経営学（担当：篠崎香織）」、「マーケティング（担当：斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

総括

今回の調査を通して、女子大生が靴を購入するときに重視することはデザインで、デザインを重視できるのならばブランドや流行は重視していないことがわかった。靴一足あたりの購入金額は6,000円以下で、年間で平均3足購入している。現在所有している靴の数の平均は10足で、住居形態と靴の所有数には関係があることがわかった。現在持っている靴の種類はスニーカーが最も多く、これから欲しいとされている靴はパンプス・スニーカー・ブーツといった歩きやすい靴が求められていることがわかった。

ヒールと通学時間、身長の関係では、通学時間が60分以上の回答者はヒールの高さを気にする人が多く、ばらつきはあるが通学時間が長いほどヒールの有無を気にする人が多いという傾向があった。身長では、比較的矮身長と高身長の人がヒールを気にしていることがわかった。

調査結果のポイント

(1) 平均約10足、回答者の多くがスニーカーを持っているという結果に

一人につき持っている靴の数は平均約10足という結果となった。また、回答者の多くがスニーカーを持っているという結果となったが、持っている靴がスニーカーのみという回答は1人だけだった。多くの回答者がスニーカー以外の靴も持っており、サンダルやパンプスを持っているという回答が次いで多く、ブーツという回答も多かった。

(2) 48人中31人がデザインを重視

靴を購入する際に重視することについては48人の回答者の中で31人が「デザイン」と答える結果となった。「デザイン」と比べて「価格」や「機能性」は回答数が少なく、また「ブランド」や「流行」の回答数がなかったことから、本学生はデザインを重視できるのならば、ブランドや流行は購入する際に重視しない傾向があると考えられる。

(3) 一足あたりは 6,000 円以下が平均的

靴を選ぶときの一足あたりの平均的な金額は 5,001 円～6,000 円であった。次いで 3,001 円～4,000 円、4,001～5,000 円であり、6,000 円以下で靴を選ぶことが多いという結果になった。

(4) 1 年間の購入数は平均 3 足

1 年間でどのくらいの靴を買うか尋ねた結果、平均は 1 年間で 3 足であった。また、現在欲しい靴はどのような靴か回答してもらった結果、最も欲しいと考えられているのはパンプス、次いでスニーカー、ブーツであり、歩きやすい靴が求められている。

(5) ヒールの有無を気にする人は 9 割

靴を買う際に、ヒールの有無を気にするか尋ねた結果、気にすると回答した人は 94%、気にしないと回答したひとは 6%であった。気にすると回答した人にヒールについて質問した結果、3cm が最も多い結果になった。反対に、高さを求めないという回答もあった。

(6) ファッションの意識も靴選びに影響している

オシャレに気を遣っている人は約 7 割で、ファッション雑誌を購読している人はあまりいなかったものの、憧れるモデルがいる人は半分ほどいたため、何らかの方法でモデルを参考にしている人がいることが分かった。

(7) ヒールの有無を気にする人は通学時間が長い

通学時間とヒール有無を気にするかどうかの関係を調べたところ、通学時間が 60 分以上の回答者は全員がヒールの有無を気にしていた。ばらつきはありながらも、通学時間が長いほどヒールを気にする人が多いようである。

(8) 低身長と高身長のひとはヒールを気にする

身長とヒールを気にするかで比べたところ、比較的 low身長と高身長の人が気にすることが分かった。気にしないと回答した人は、だいたい 150 cm 半ばが多かった。164 cm で気にしない人もいたが、そこは自分の身長に対しての個人差があると考えられる。

(9) 使えるお金が多いからといって靴の所有数は多くない

お金に余裕があっても、靴にそれが反映されるという結果は出なかった。靴にお金をかけるかは、所得というよりも気持ちの面で個人差があると予測できる。

(10) 住居形態と靴の所有数は関係がある

実家暮らしが圧倒的に、靴の所有数が多いことが分かった。靴を所有できる環境が大きく影響していると考えられる。

調査結果について

<調査概要>

調査対象	実践女子大学渋谷キャンパス在学生
調査方法	調査票調査
調査期間	2015 年 10 月 9 日～10 月 20 日
有効回答数	48 人
回答者の属性	【学年】3 年生、2 年生

<本調査担当チーム>
実践「ペルソナ」研究会
3年 小原彩
3年 加藤沙織
3年 富田久美子
3年 福田詩菜

調査結果データ

(1) 平均約 10 足、回答者の多くがスニーカーを持っているという結果に
平均 9.8 足という結果になった。少なくとも 3 足、多くて 20 足という回答があった。ス
ニーカーは回答者のほとんどが持っている結果となった。次いでサンダル、パンプスとな
り、一番少ない回答は長靴となった (図 1)。

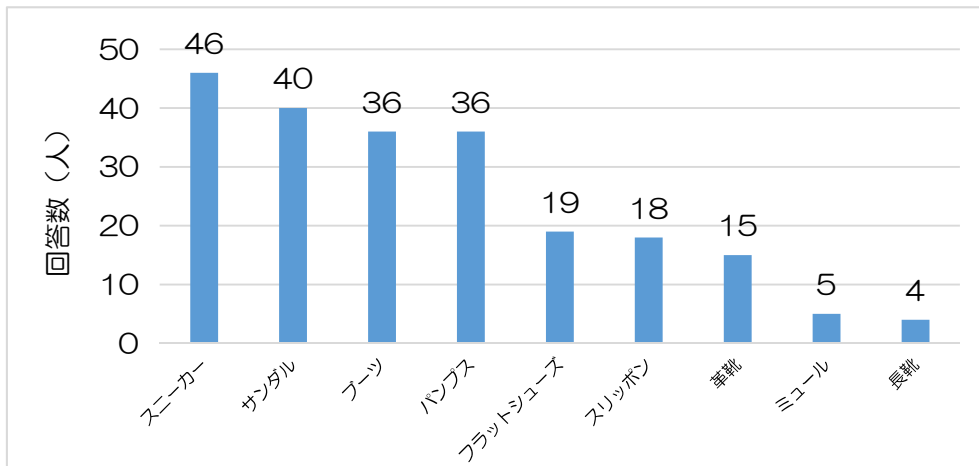


図 1. 持っている靴の種類 (n=48)

(2) 48 人中 31 人がデザインを重視

靴を購入する際に重視することについては、デザインを重視するという回答が一番多か
った。対して、ブランドや流行は重視されている回答がなく、その他の意見でサイズや履
き心地を重視する回答があった (図 2)。

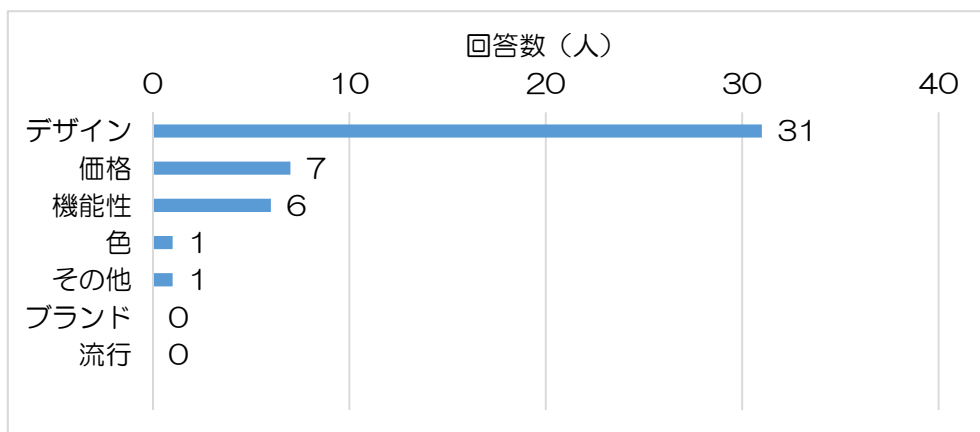


図 2. 靴を購入する際何を重視するか (n=47)

(3) 一足あたりは 6,000 円以下が平均的

靴を選ぶときの一足あたりの平均的な金額は 5,001 円～6,000 円であった。次いで 3,001 円～4,000 円、4,001～5,000 円であり、6,000 円以下で靴を選ぶことが多いという結果になった (図3)。

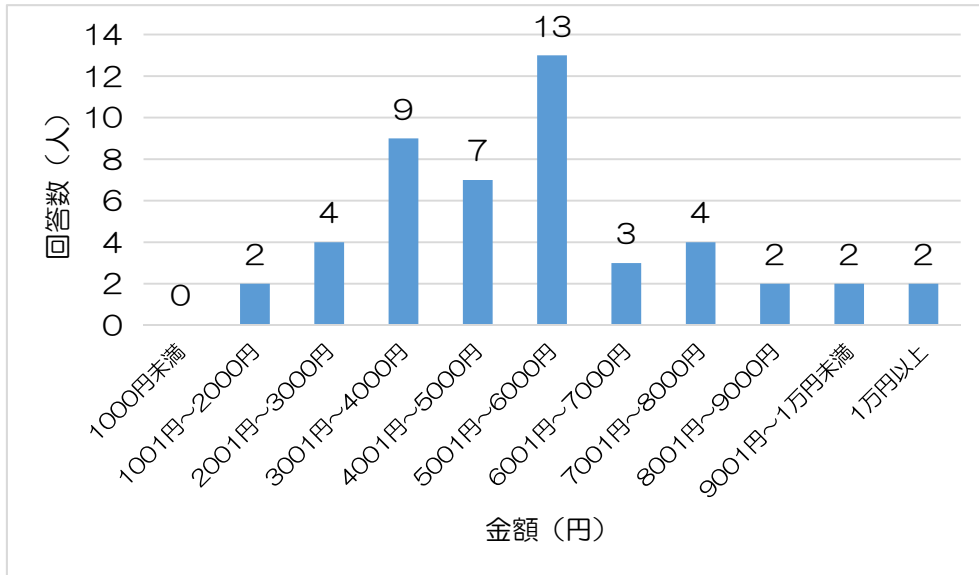


図3. 靴を選ぶときの平均的な金額 (一足あたり) (n=48)

(4) 1年間の購入数は平均3足

あなたは1年間でどのくらいの靴を買うかという質問の結果、1年間に購入する靴の数の平均は3足であった。また、現在欲しい靴はどのような種類の靴かという質問に順位付けで回答してもらった結果、最も欲しいと考えられているのはパンプス、次いでスニーカー、ブーツであり、歩きやすい靴が求められているようであった (図4)。

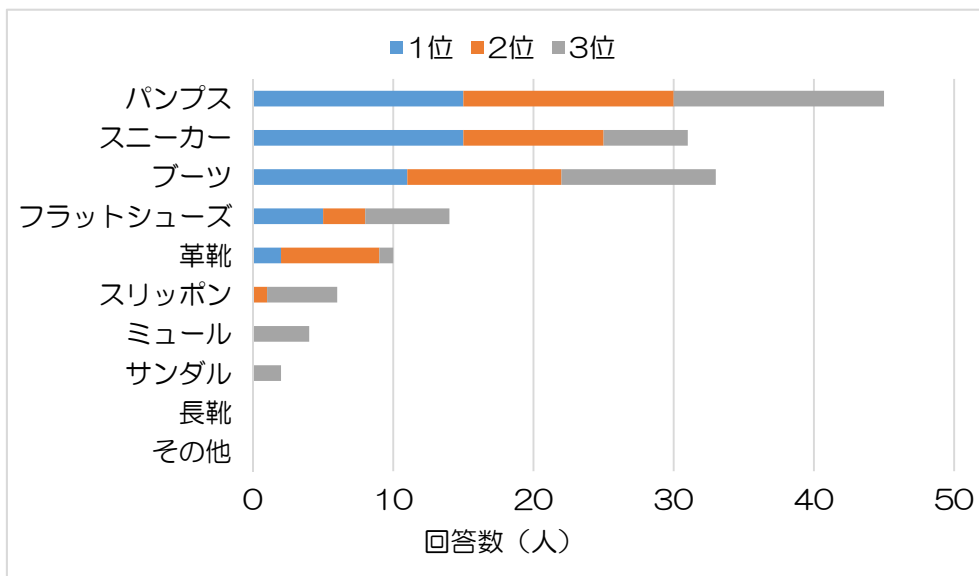


図4. 現在欲しい靴 (n=48)

(5) ヒールの有無を気にする人は9割

靴を買う際に、ヒールの有無を気にするかという質問に対して、気にすると回答した人は94%、気にしないと回答した人は6%であった(図5)。

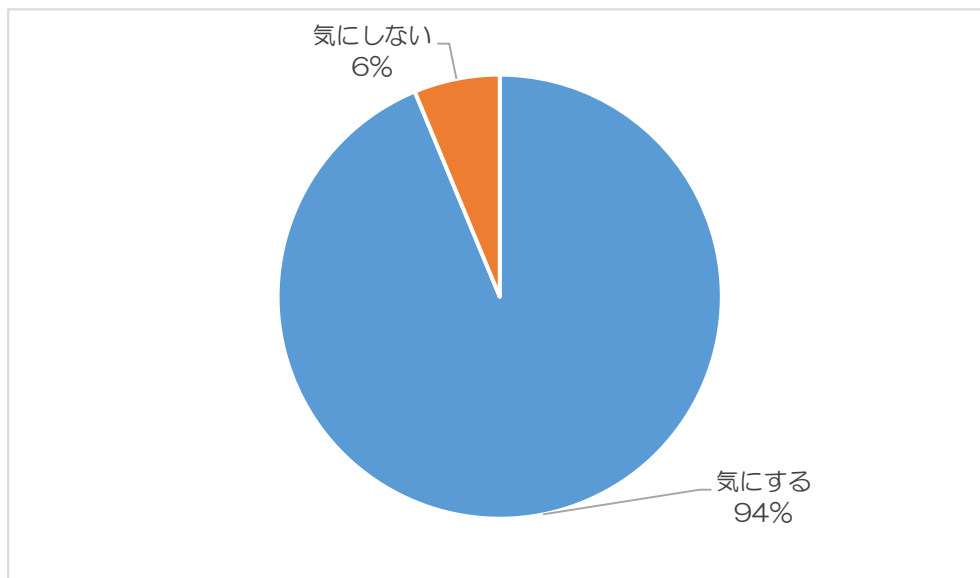


図5. ヒールの有無について (n=48)

気にすると回答した人にヒールは何センチ程度のものを選ぶかを尋ねたところ、3cm が13人と最も多く、次いで5cm 程度の高さを選ぶ人が12人、10cm が3人という結果になり、ヒールの有無を気にするがあまり高くないヒール好まれるようだ。少数であるが、ヒールの高さを好まない0cm の回答もあった(図6)。

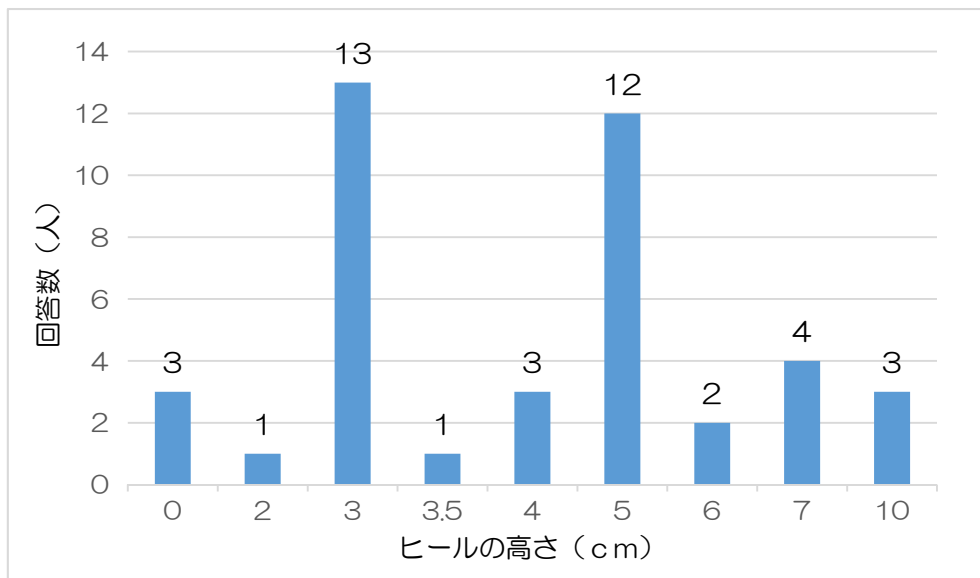


図6. ヒールの高さについて (n=42)

(6) ファッションの意識も靴選びに影響している

ファッションについて尋ねたところ、オシャレに気を遣っている人は70%ほどいた。ファッション雑誌を購読している人はあまりいなかった。しかし、憧れるモデルのいる人は半分ほどいることが分かった。また、体型を維持している人もほとんどいなかった。靴のこだわりや、異性（他人）の靴に対しては気にしている人は半々ほどであった。それに対して、周りからの目が気になっている人が多かった（図7）。

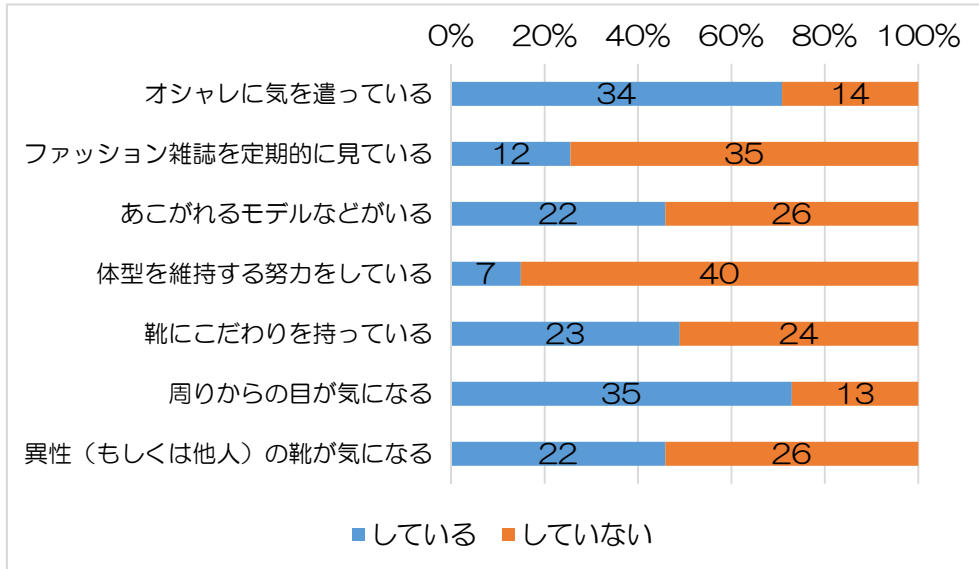


図7. ファッションに関する意識 (n=48)

(7) ヒールの有無を気にする人は通学時間が長い

通学時間とヒールを気にする人が比例するのではないかという仮説をたてた。縦軸は人数、横軸はヒールを気にするかを表している。軸自体は通学時間を表している。通学時間が60分以上の回答者は全員がヒールの高さを気にしているということがわかった。ばらつきはありながらも、通学時間が長いほどヒールを気にする人が多いようだ（図8）。

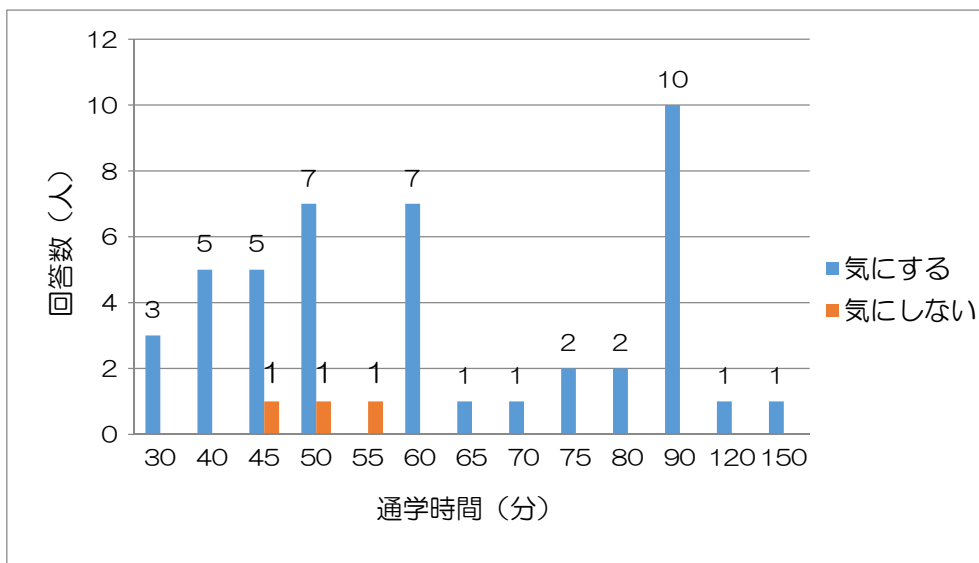


図8. 通学時間とヒールの有無への意識 (n=48)

(8) 低身長と高身長のひとはヒールを気にする

ヒールの有無を気にするかどうか、身長で比較した。日本人の20代女性の平均身長は約158cmであるが、比較的矮身長と高身長の方がヒールの有無を気にすることが分かった。気にしないと回答した人は、だいたい150cm半ばが多かった。164cmでヒールの有無を気にしない人もいたが、そこには自分の身長に対しての個人差があると考えられる(図9)。

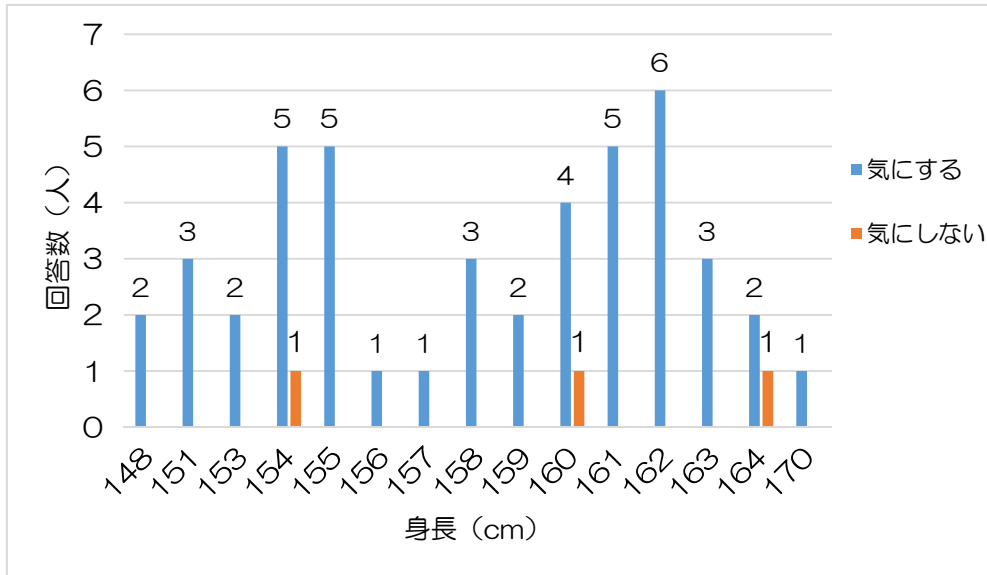


図9. 身長とヒール (n=48)

(9) 使えるお金が多いからといって靴の所有数は多くない

お金に余裕があれば靴の所有数も多いという仮説を立てたが、相関分析の結果、相関係数は0.167であり仮説は立証できなかった。使えるお金を靴にどれだけ使うかはそれぞれで違っている(図10)。

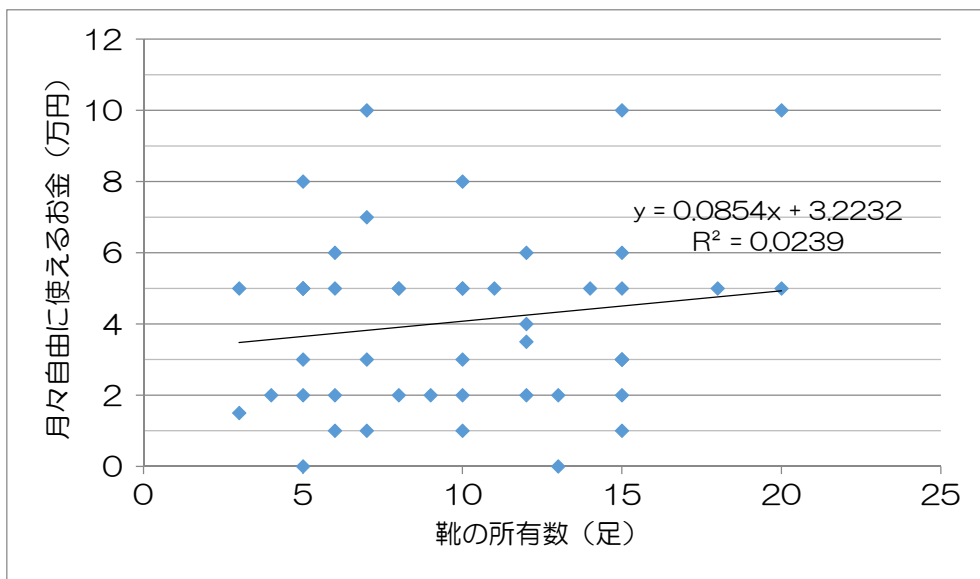


図10. 靴の所有数と月々自由に使えるお金 (n=48)

また、月々自由に使えるお金と靴の購入数の相関についても調べたところ、相関係数は0.142であり、こちらも相関がみられないということがわかった（図 11）。

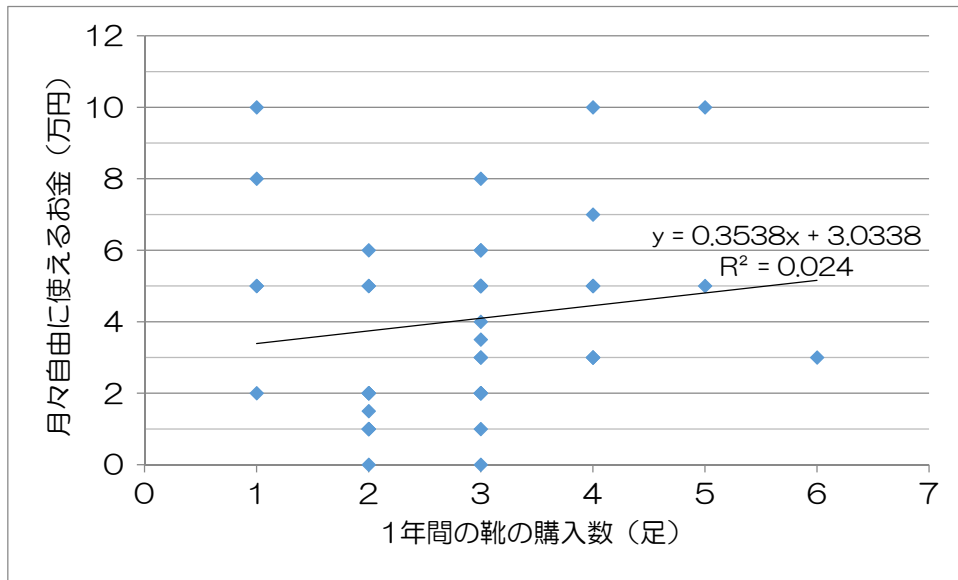


図 11. 靴の購入数と月々自由に使えるお金 (n=48)

(10) 住居形態と靴の所有数は関係がある

実家暮らしが圧倒的に、靴の所有数が多いことが分かった。その理由として、寮も含めて一人暮らしは住まいが狭いこともあり、限られた収納スペースで多くの靴を置くことができないからではないかと考えられる。実家であるほうが広いスペースで多くの靴を所有しやすいと推測できる（図 12）。

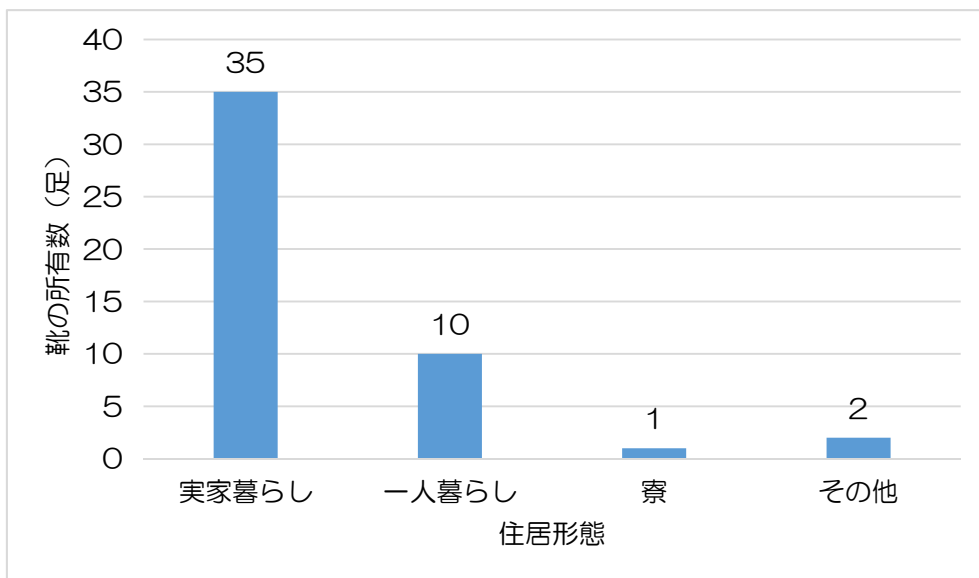


図 12. 靴の所有数と住居形態 (n=48)